

事項一七 国際聯盟創設ニ関スル件

五四二 十月十六日 在英國珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

国際聯盟創設問題ニ関スル英國政界ノ動向報

告ノ件

第八七三号

(十月十八日接受)

「リーグ、オブ、ネーションズ」問題ハ従前数次上下両院ノ「パシフィスト」側ヨリ議會查問会ニ上セラレシコトアリシモ政府当局ニ於テハ主義上ノ賛成以上ニハ成ルベク問題ノ内容ニ触ルルヲ避ケ常ニ保留的態度ヲ以テ之ニ処シ居ルノ有様ナリシガ九月二十七日ノ紐育演説ニ於テ「ウィルソン」ガ国際聯盟設定ヲ以テ講和ノ骨子トナスノ趣旨ヲ声明シテ以来形勢急転九月三十日「バルフォア」氏ハ遂ニ公然右裏書ノ演説ヲナシタルコトハ往電第八一三号報告ノ通りナル処国際聯盟運動ニ関シテハ英國ニハ現ニ二個ノ結社アリ、一ハ一昨年自由党ノ Sir Willoughby Dickinson ヲ会長トシ同議員 Aeneas William ヲ始メ重ニ自由党系

ノ平和論者ヨリ成レル「League of nations society」ニシテ其ノ真意ハ独逸ヲ加ヘタル国際聯盟ヲ今直チニ創設セントスルニ在リ要スルニ戦捷ニ代フルニ「リーグ、オブ、ネーションズ」ノ構成ヲ以テセントスルノ傾アリ所謂妥協講和派乃至「パシフィスト」的趨勢ノ嫌アリシハ疑ナキノ真相ナリシガ本年七月「マウント、バーノン」ニ於ケル「ウィルソン」ノ演説ト相前後シテ前記結社ニ對抗シテ「League of free nations association」ナルモノ「タイムス」主筆「スチード」、「ダヴィッド、デービス」大佐、「ラブザーバー」主筆「ガービン」、「ナシヨナル、ユニオン、オブ、レールウェイ」総務ニシテ下院ニ於ケル労働党ノ頭目ノ一タル「トーマス」等主トシテ現内閣擁護ノ主戦派連並「ウェストミンスター、ガゼット」主筆「スペンダー」、「ギルバート、マレー」自由党「グレイ」卿親近ノ有力者トノ合同発起ニ依リ創立セラレ専ラ国際聯盟ニ関シテ与論ノ教導ト平和會議ノ準備トヲ目的トシタル新運動ヲ

開始シツアルガ該会ノ特色トスル所ハ独逸ガ西欧ニ於ケル民本主義ノ各国ト同一ノ意味ニ於テ「フリー、ネーション」トナル迄ハ該同盟ニ加入ヲ許容セズトノ主張ニアリ即チ斯クシテ独逸「ミリタリズム」ノ全滅ヲ保証シ国際聯盟運動ヲシテ英國開戦ノ本旨ニ順応スル正当ノ軌道ニ立返リ以テ戦争遂行ニ何等瑕疵ナカランコトヲ期スルニ在リ、斯クシテ此ノ両会ハ暫ク兩々相對峙ノ姿ニ推移シ居リシガ本月三日「スチード」氏ハ本多公使ト会食ノ際ノ内話ニ予テ内議進行中ナリシ右両会ノ聯合ハ愈々事実トナリ近ク「グレイ」卿ヲ看板ニ擁立シテ活動ヲ開始スル筈ナリ同卿ハ先月末ヨリ倫敦ニ在リ一兩日前自分等ト内相談ヲ行ヒタルガ首相ノ同意アリ次第十月十日右両会聯合ノ発会式ニ臨ミ本問題ニ関シ一大演説ヲ為ス筈ナリトコトナリシガ果然同日予定ノ如ク軍事内閣大臣「バーンズ」ノ司会ノ下ニ右演説会ノ開催アリ「グレイ」卿演説ノ内容ハ新聞電報ニ依リ既ニ詳細御承知ノ事ト存スル処前来ノ叙述ニテモ御推知ノ如ク右ハ政府ノ指金ニ出テタル一ノ國民の運動ニシテ要スルニ国際同盟ノ構成ガ講和ノ骨子タルコトハ当国政府モ之ヲ受諾シタルモノニテ今回ノ新運動ハ延テ本問題ニ関

シ国論ノ啓発国際聯盟ノ実行の細目ノ件ニ付立案等ノ準備の動作ノ開始ニ外ナラズ「グレイ」卿演説ノ内容ハ無論政府ト打合済ノモノニシテ国際聯盟ニ対スル当国所見ノ大綱ヲ表示スルモノタルハ又自ラ推測シ得ル所ナルガ同卿多年ノ重望ニ加フルニ退隱以来二年ノ沈黙ヲ破リ此國民の新運動ノ陣頭ニ現レタルノ一事既ニ自ラ一般人心ニ多大ノ刺戟ヲ与フルモノアルニ況ンヤ宿痾ノ眼疾ハ近來益々悪クシテ印刷セル文字ハ一切読メズ殆ト盲目ニ近シト云フモ拡地球ヲ用ヒテ僅ニ大形ノ草稿文ヲ頼リツツアリシ夫子ノ勇ニ万丈ノ敬意ヲ催サシメタル一種ノ心理的勢力ハ席ニ列シタル本使ノ親シク目撃セル所ニシテ今回ノ運動ニ同卿ヲ押立テタルハ確ニ政府側ノ一大成効ト見ルベク一般新聞ノ評論ニ徴スルモ同卿演説ノ趣旨ハ国内大多數ノ賛成ノ下ニ英國ノ国策タルノ權威ヲ得ツツアルコトハ略々疑ナキモノノ如ク感セラレ

独逸今回ノ(不明)ニ徴スルモ国際聯盟ハ来ルベキ平和會議ノ際重要ノ問題タルベキコト最早疑ナキノ実勢ナル処率直ニ本使ノ所感ヲ陳ブレバ実ハ我方ニ於テハ本問題ニ対シテハ殆ト何等ノ用意ナク此儘ニテハ講和會議ノ場合一大弱

点ヲ免レザルニ付本使ハ差当リ幸右「スチード」氏等トモ親交アル横井時雄氏ニ旨ヲ含メ「スチード」側ノ団体ニ加入シ出来得ル丈本運動ニ接触シテ以テ表裏ノ動靜探知ニ努ムルト同時ニ一面本問題ニ関スル各種ノ著述刊行物等ヲ涉獵シ専門の研究ヲ遂クル様依囑シ置ケリ右御含迄

五四三 十月二十六日 在英國珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

國際聯盟ノ組織ニ関スル英國調査委員會ノ報告ヲ在歐同盟国及米國ノ政府ノ審査ニ附スル
方針ナル旨セシル卿議會ニ於テ答弁ノ件

第九一九号

セシル卿ハ十月二十四日下院ニ於ケル一議員ノ質問ニ答ヘ國際同盟ノ組織ニ関スル仏國調査會ノ報告ヲ聯合各國調査會ニ於ケル討議ノ基礎トナス可キ旨發議セラレタルコトナシ英國ノ方針ハ(仏國モ同様ト信スルカ)我專門家ヲ以テ組織セル委員會ノ報告ヲ重ナル在歐同盟諸國ノ政府及ヒ米國政府ニ提出シテ其審査ニ附スルニ在リ尚第二段ノ措置トシテハ右聯合諸國間ニ専門家會合細目ニ亘ル計畫案ヲ起草シ得ヘキ討議ノ基礎及ヒ參考事項ヲ供給スル(不明)ノ明

五四五 十一月九日 在英國珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

國際聯盟ニ関スル英國政府ノ措置ノ經過及方針ニ付内報ヲ得度旨セシル卿ニ要請ノ件

第九八九号

往電第九八六号會見ノ際本使ハ「セシル」卿ガ國際聯盟問題ニ言及セル談緒ヲ継ギ本問題ニ對シテハ帝國政府ニ於テ同情の意味ヲ感ジ、折角考究中ナルヲ以テ英國政府ノ執リタル措置ノ經過並今後ノ方針ニ付帝國政府ノ參考トナルベキ事項ハ成ルベク内報ヲ得タク、又同卿ハ過日議會ニ於テ答弁ノ際本問題ハ戰爭終了ト共ニ歐洲重要聯合國及ビ米國ト協議ノ上決定スベキ旨ヲ言明セラレタルガ右ハ日本政府ヲ除外スルノ趣旨ニ非ザル可キヲ切望スト述ベタルニ、同卿ハ破顔一番夫レハ全ク自分ノ舌ノ廻リ損ヒナリシト一笑ノ後、更ニ真面目ナル語調ヲ以テ我政府ハ本問題ニ関シ日本ヲ除外スルノ意ハ毫末モ之無キヲ以テ之ニ関スル事項ハ喜ンデ之ヲ内報スベシ差当リ英國委員ノ報告ハ早速之ヲ送附スベシ但シ目下ノ所充分ノ機密ヲ以テ取扱ハルル様致度シト語ラレタリ

一七 國際聯盟創設ニ関スル件 五四五 五四六 五四七

確ナル協定ヲ樹立スルニ在リ吾人ハ目下カカル明確ナル協定ニ達セント努メツアリ且近々米國ト本件ヲ腹藏ナク商議セント欲ス叙上ノ狀況ナルヲ以テ此際英仏兩國調査會ノ報告發表ハ未タ其時期ニ非スト認ム云々ト述ヘタリ

五四四 十月二十九日 内田外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛(電報)

國際聯盟問題處理ニ関シ參考トナルベキ事項
内報ヲ得度旨セシル卿ニ申入方訓令ノ件

第六一〇号

貴電第九一九号ニ関シ貴官ハ「セシル」卿ニ面會ノ上國際聯盟問題ノ處理ニ関シ今日迄英國政府ノ執リタル措置ノ經過及今後ノ方針ニ付本件下院ニ於ケル答弁以外ニ帝國政府ノ參考トナルヘキ事項ハ差支ナキ限り詳細ニ内報ヲ得ムコトヲ求メラレ度シ將又同卿ハ英專門家ヨリ成ル委員會ノ報告ヲ在歐同盟諸國及米國ニ提出スヘシ云々ト説述シタル由ナルガ右ハ固ヨリ本問題ニ付帝國ヲ除外スルノ意ニ非サルコトト了解セララルモ為念此ノ点ヲモ御確メノ上回電アリ度シ

在米、仏、伊、各大使ヘ転電セリ。

五四六 十一月十日 在米國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

独逸ガ悔悟ノ精神ヲ明カニスルナラバ之ヲ國際聯盟ニ加フベキ旨米前大統領タフト演説ノ件

第六八二号

(十一月十二日接受)

前大統領「タフト」ハ十一月九日 Madison 於ル League to enforce peace 集會ノ席上國際聯盟ニ関スル演説ヲ為シ独逸ニシテ「ホーヘンツォルレルン」ヲ排斥シ既往ノ行為ニ對シ悔悟ノ精神ヲ明カニスルニ於テハ独逸人民ヲ該聯盟ニ加フ可シ又 Swiss idea ニ基キ米國ニ軍事教練制度ヲ設ケ且各國ノ軍備ハ漸次撤裁スルコト望マシキ旨ヲ論述セリ

五四七 十一月十二日 在英國珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

國際聯盟設立ノ必要ニ関シ自由黨員ニ對スル
ロイド、ジョージ演説ノ要旨報告ノ件

第一〇〇五号

十一月十二日「ロイド、ジョージ」氏ハ同氏一味自由黨員ノ会合ニ於ケル演説中國國際聯盟問題ニ関シ左ノ趣旨ヲ述ベタリ

國際聯盟ハ今ヤ益緊要ノ問題トナレリ多数ノ小国歐洲ニ再生シタルガ此等ハ隣邦ノ野心ニ対シ保護ヲ受クル為メ國際聯盟ヲ必要トス可ク此種聯盟ハ恒久ノ平和ノ絶対的必要条件ナリ吾人ハ之ガ実現ヲ保障スル為メ講和會議ニ臨マントス斯カル聯盟ハ平和並完全ナル軍備縮少ヲ保障スルモノニシテ軍備縮少ハ徵兵廢止ノ先驅ナリ英帝國守備ノ為メ當国ニ有効ナル陸軍ヲ有セザル可カラザル事勿論ナルモ余ハ國際聯盟ノ存立ト共ニ何レノ国モ徵兵ヲ必要トセザル事態ノ發生ヲ切望ス

五四八 十一月十二日

在英國珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

國際聯盟問題ニ関スルセシル卿演説及同問題

委員會報告書ノ大要電報スヘキヤ請訓ノ件

第二〇一一号

(十一月十七日接受)

往電第九八九号会见ノ際「セシル」卿ハ國際聯盟問題ニ関シテハ自分モ多大ノ興味ヲ以テ折角考究中ニテ不日所見ヲ

發表スル積リナリト語ラレタルガ同卿ハ十一月十二日「バーミンガム」大学総長就任式演説中精細ニ同問題ヲ論述シタリ右演説ハ從來本問題ニ付發表セラレタル意見中最モ卓拔且放胆ナルモノトシテ大ニ世上ノ注目ヲ惹キ居レル処同卿ヨリ右演説ノ草稿並ニ國際聯盟問題委員會報告書送付アリタルニ付若シ本省ニ於テ必要トセラルルニ於テハ右執レモ大体電報致スベキニ付何分ノ義御回電ヲ請フ

五四九 十一月十六日

在米國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國上院ニ於ケル國際聯盟ニ関スル賛否両論

報告ノ件

第七一五号

(十一月十六日接受)

十五日上院ニ於テ最近「ロイド、ジョージ」ノ演説ニ關聯シ端無ク國際聯盟ニ関スル討議起リ数名ノ議員發言シタルカ其中 Poincaré 氏ハ右聯盟ニ於テ國際間ノ經濟政策ヲ支配シ自由貿易主義ヲ驅逐シ又和戰ノ決定モ之ニ委セントスルモノナルカ如キモ斯クテハ關稅等ニ關スル米國ノ自主權ヲ放棄セサルヲ得ザルヘク又歐洲ノ一國カ中南米ニ於テ勢力ヲ擴張スル為メ之ト争ハサルヘカラサルニ当リ「モン

報アリタシ

五五一 十一月二十一日

在英國珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

國際聯盟問題ニ関スルセシル卿ノ演説要旨報

告ノ件

第一〇三四号

(十一月二十三日接受)

貴電第六四〇号ニ関シ「セシル」卿演説要旨左ノ通戰爭再発ノ予防策トシテ独逸ヲ全滅シ聯合諸國ニ於テ世界ノ霸權ヲ掌握セントスルハ畢竟國際的專制ヲ誘フモノニシテ自由ノ思想ニ悖リ到底吾人ノ取ラザル所ナリ今後平和確保ノ方策ハ國際聯盟等一般協定ノ形式ニ依ラザル可カラズ斯カル方策ヲ迷夢ト為シ世界ハ再び国力均衡軍備競争ノ巷ト為リ戰爭ノ再来免ルベカラズト唱フル者アレドモ吾人ハ常ニ優勝者タルヲ期スベカラザル而已ナラズ歐洲文明ハ大戰ノ再来ニ堪ヘ得ルヤ否ヤ疑問ニシテ今日已ニ革命乃至無政府ノ情態ハ勞働級ニ襲来シツツアリ勿論史上ノ先例例ヘバ神聖同盟ノ成立並ニ事業ヲ忘ル可カラズ然レトモ神聖同盟ノ最大ノ欠点ハ其ノ專制政体ヲ擁護シタリシヨリモ寧ロ自ラ加盟國ノ範圍限定セラレ一朋党ヲ形成シタルノ点ニ

五五〇 十一月十八日

内田外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛(電報)

國際聯盟問題ニ関スルセシル卿演説等大要電

報方訓令ノ件

第六四〇号

貴電第一〇一一号末段ニ関シ執レモ大体至急電報シ全文郵

アリ此故ニ國際聯盟ハ同僚諸国ニ於テ或一國ガ連盟ノ主義根底ヲ衷心ヨリ (*ex animo*) 受諾スルモノナルコトヲ信スル場合ニハ之ヲ加盟セシメ文明国全部ヲ包容スルノ仕組ト為スコト絶對ニ必要ナリ加盟ヲ肯ゼザル国家ニ對シテハ經濟的又ハ其他ノ圧迫ヲ加ヘテ加盟ヲ強制スルモ一法ナルベシ國際聯盟實現ノ困難ナルハ云フ迄モ無キカ茲ニ三ノ有望ナル事情アリ

(一) 現戰爭ノ慘禍及將來戰爭ノ文明ニ對スル脅威
(二) 國民的感情以上ニ普遍の人道思想ノ漸次發達シ來レルコト例ヘバ宗教上ノ統合、労働者ノ國際の団体ノ發達又當初ノ露國過激派ノ思想等之ヲ立証ス

(三) 文明諸國ガ凡テ一經濟組織ノ部分ナルコト漸次認識セラレ戰爭中聯合諸國ハ經濟上ノ團結ヲ形成シタルガ若シ之ヲ發達セシメ加入國増加セバ經濟的の圧迫ノ實行ヲ容易ナラシメ又國際間競争ヲ減ジ協力ヲ増進シテ戰爭ノ原因ヲ除クコトトナルベシ

國際聯盟ノ立法機關ニ付テハ各國代表者會議タルヘキコト疑少ナキモ其實施強制機關ニ付テハ至大ノ難問ニ逢着ス個人ノ場合ニハ強制方法トシテ裁判所及輿論ノ二アリテ余輩

ハ輿論ヲ以テ最後ノ決定力アルモノト信ス國際問題ニ付テハ裁判所ヲ設クルモ其判決ノ公正ヲ得ルコト困難ナルノミナラス其實施強制法至難ナリ余輩ハ從來何等カノ形式ニ於テ國際的の兵力ヲ使用セントスル案ノ實用ヲ疑フモノニシテ茲ニ戰因トナルノ虞アル問題ノ決定ヲ組織集中セラレタル國際輿論ニ求ムルノ案ヲ提唱ス國際輿論ノ力ハ既ニ之ヲ認メ得ヘク現戰爭ニ付テモ独逸ノ敗北ハ文明保護ノ為メ必要ナルコト漸次世界ノ得心スル所トナレリ若シ國際輿論ニシテ戰前ニ發動スルノ機會ヲ与ヘラルレハ其戰爭予防ノ効果少カラサルヘシ此目的ヲ以テ少クトモ開戦ヲ遷延セシメ充分ニ且公然ノ討議ヲ為スノ方法ヲ備ヘンカ為メ各國ハ條約ヲ結ビ各締盟國ハ正式列國會議ニ於テ紛議ノ審査若クハ決定ヲ了スル迄ハ自ラ開戦シ又ハ他國ヲシテ開戦セシメサルコトトシ之ニ違反スルモノハ締盟諸國ニ於テ軍事的及經濟的の圧迫ヲ加フルコトトスヘシ而シテ經濟的の圧迫ノ實行ノ容易且有効ナルハ現戰爭ニ依リ証セラレタル所ナリ

軍備問題ニ付テハ其撤廢乃至大制限ノ結局必要ナルコト云フ迄モナク余ハ未タ安全且實際的ナル方法ヲ發見セス漸次縮少ノ方法ヲ辿ルノ外ナカルヘシ目下特ニ吾人ノ尽力スヘ

キハ國際交誼ノ増進ニ在リ條約ヲ嚴守スルハ勿論時々旧條約修正必要ノ有無ヲ合議シ又後進國民管理問題ノ關係ヨリ其増進ヲ計ルコトヲ得ヘシ尚特ニ注意スヘキハ(一) 正当ナル平和ノ樹立カ聯盟政綱ノ基礎ヲ為スヘキコト及(二) 聯盟ノ成立ハ講和條約中ニ規定スヘキコト之ナリ此際成立セシメズンハ健忘性ノ人類容易ニ之ヲ成功スルコトナカルヘシ

五五二 十一月二十一日 在英國珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

國際聯盟ハ英仏米日独伊ノ六國ヲ骨子トシテ

組織スベキ旨ノホールデーノ卿意見報告ノ件

第一〇三七号 (十一月二十三日接受)

十一月三日「ホールデー」卿ハ横井ト会谈ノ際國際聯盟問題ニ関シ横井ノ問ニ對シテ意見ヲ述ヘテ曰ク余ハ主義トシテ國際聯盟ニ賛成ス尤モ其成立ニハ幾多ノ難件ヲ伴フヘキハ勿論ナルモ今次戰爭ノ慘禍ヲ嘗メタル各國ハ何レモ將來永劫ニ平和ヲ維持スヘキ何等カノ方策ヲ案出セサルヘカラサル事情ニ際会セリ而シテ該聯盟ノ成否ハ一ニ世界六強國ノ提携如何ニ懸ル即チ該聯盟ハ英、仏、米、日、独、及伊ノ六國ヲ骨子トシテ組織スヘク其六國ハ相互腹藏ナク意

一七 國際聯盟創設ニ関スル件 五五二 五五三

見ヲ交換シテ其組織ノ大綱ヲ定メ中央ニハ常設委員ヲ設置シテ各國形勢ノ變遷ニ注意シ兵備關稅其他ノ問題ニ付テ苟クモ國際關係ニ不和ヲ來タサントスル場合ハ六國相互ニ戒飭シ或ハ必要ニ応ジテ經濟上ノ制裁ヲ加フヘキ仕組トシ他ノ小國ハ唯其關係問題ニ付テノミ協議ニ参加セシメテ可ナリ此六國間ノ協調ニシテ破レスンハ世界ノ平和ハ自ラ維持セラルヘキヲ以テ先ツ其協調ノ方策ヲ講スルヲ目下ノ急務トス云々右御参考迄

五五三 十一月二十九日 在西國坂田公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

西國下院ガ同國ノ國際聯盟加盟ヲ可決ノ件

第一三〇号 (十二月一日接受)

十一月二十二日當國下院ニ於テ政府黨議員ヨリ西班牙ノ「リーグ、オブ、ネーションズ」加盟案ノ提出アリ外務大臣ハ是ニ同意ヲ表シ右加盟ノ形式ヲ講究シ置ク可キ旨ヲ述べ該案ハ下院ノ可決スル所トナリシガ昨二十八日外務省ニ於テ本官外務大臣ト会見ノ際同大臣ハ近々巴里ニ於テ開カル可キ平和會議ニハ無論交戰國ノ委員ノミ参列ス可キモ同會議ノ題目中ニハ「フリーダム、オブ、シー」「リーグ、

オブ、ネーションズ」等ノ如キ一般の性質ヲ帶ビ且各國ノ利害ニ甚大ノ關係ヲ有スル問題アル趣ニ付右等ノ案件ニ關シテハ交戦国中立国双方ノ委員ヨリ成ル別個ノ會議開催セラル可ク同會議ニ於テ弱国ト雖強国ト全然同一ノ權利ヲ得ル様主張ス可シ云々ト本官ニ語レリ右ハ平和會議ニ對スル中立国ノ態度ニ關シ御參考トナル可シト存ジ為念申進ス

五五四 十一月一日 在英国珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英国ノ國際聯盟委員會作成ノ聯盟協約案報告

ノ件

第一〇八一号

(十二月二日接受)

貴電第六四〇号ニ關シ國際連盟委員會ハ委員長「サー、ウオルター、フィリモア」ノ外「ボラード」「ホルランドローズ」兩教授及外務省員等六名ヨリ成リ二回ニ亘リ報告ヲ提出シタルカ第一回ハ國際聯盟問題ノ法律的研究ノ結果ニシテ第二回ハ其歴史の觀察ナリ前者ニ於テ該委員會ハ(一)超國家的權力ヲ伴フ歐洲聯合(European confederation with supernatural authority)ノ考案ハ國際輿論ノ現狀ニ鑑ミ尚早ノ感アリ実行シ得ヘキ方法トシテハ強力ナル

右財政上及經濟上ノ諸件中ニハ違犯国臣民ニ對スル通商及財政關係ノ斷絶、聯盟国臣民ト違犯国臣民トノ交通禁止並ニ違犯国臣民ガ聯盟国タルト否トヲ問ハズ如何ナル国ノ臣民トモ通商及財政關係ニ入ルヲ防止スル事ヲ包含ス聯盟国(脱)力若クハ海軍力ノ有力ナル貢獻ヲ為シ得ザルモノハ尠クトモ財政上及經濟上ノ処置ヲ取ルベシ

第二部 國際紛争平和の處理ニ關スル規程(第三条乃至第十二条)

条約ノ解釈、國際法上ノ疑義、國際義務ノ違犯ヲ構成スベキ事實ノ存否又ハ此種違犯行為ニ基ク補償ノ性質範圍ニ關スル紛争聯盟国間ニ生シ外交上ノ手段ニ依リ解決スルコト能ハザルトキハ聯盟国ハ仲裁裁判ヲ以テ最モ有效ニシテ且最モ公平ナル積処理法ナリト認ム但シ關係聯盟国ガ該紛争ヲ仲裁裁判ニ附スルコトニ對シ又ハ仲裁裁判ニ附スベキ問題若ハ仲裁裁判所ノ構成ニ關スル異議アル時其他何等カノ事由ニ依リ實際仲裁裁判ニ附スルコト能ハザル(脱)ハ何レノ關係聯盟国ト雖モ聯盟會議ニ對シ紛争事件ノ審議ヲ請求スルコトヲ得聯盟會議ハ其ノ議事規則ヲ制定スベク審議報告ノ為メ委員ヲ任命スルコトヲ得此等事項ノ決定ハ參

「コオペレーション」若クハ同盟條約ニ依ルノ外ナキコト(二)然モ永続的の國際會議若クハ仲裁裁判所ノ制度ニ依ラントスル從來ノ考案ハ何レモ其儘ニテハ実行シ得サルコト

トノ前提ノ下ニ別ニ國際聯盟協約案ヲ作成シ右(二)ノ諸考案ノ骨子ヲ參酌スルト同時ニ明白ナル障礙点ヲ除去スルニ努メタリ右聯盟ノ第一目的ハ如何ナル場合ニ在リテモ聯盟国間ノ平和ヲ維持スル事ニシテ其第二ノ目的ハ聯盟国間ノ紛争處理ニ關スル國際聯盟ヲ定ムルニ在リ而シテ其協約案ナルモノハ之ヲ四部十八箇条ニ分チ其要領左ノ通

第一部 戦争予防ニ關スル規定(第一条及第二条)

聯盟一国ハ(一)予メ紛争事件ヲ仲裁裁判若クハ聯盟會議ニ附スルコト(二)仲裁判決若クハ聯盟會議ノ報告アルニ至ルマテハ(即チ「モラトリウム」)他ノ聯盟国ニ對シ開戦セサルヘキコト並(三)仲裁判決若クハ聯盟會議ノ報告中ノ勸告ニ服從スル他ノ聯盟国ニ對シ開戦セサルヘキコトヲ約定ス聯盟国ハ右約定ニ違反シタルトキハ其行為ニ依リ直チニ其他一切ノ聯盟国ニ對シ戦争關係ニ立ツヘク後者ハ協同且各自ニ斯カル反則行為ノ抑制ニ最有効ナル軍事上財政上及經濟上一切ノ処置ヲ執ルヘキコトヲ約定スルモノトス

列聯盟国多数決ニ依ルコトヲ得該會議ノ權能ハ紛争事實ヲ確認シ並ニ事件ノ曲直ニ基キ且正当ニシテ永続的ナル解決ヲ齎シ得ベキ勸告ヲ為スニ在リ但シ右勸告ハ判決ノ効力ヲ有セズ聯盟国ハ自国利益ノ許ス程度ニ於テ出来得ル限り爭議ニ關係アル報道ヲ聯盟會議若クハ其任命ニ係ル委員ニ供給スベキコトヲ約定ス該會議ノ勸告ハ紛争国ニ之ヲ申渡スコトヲ要スルモ其同意ヲ必要トセズ聯盟會議ニ於テ其勸告ニ付一致スルコト能ハザル時ハ會議參列国ニシテ當該勸告ノ性質ニ付異議ナキ国ノ代表者ハ斯カル国ガ參列国ノ過半数ヲ占ムル場合ニ限り其ノ紛争事實及勸告案ニ對スル多数意見ヲ公表スルノ義務アルモノトス紛争国ハ継続的損害ノ存在スルコト又ハ補償及恢復ニ付急速ナル処置ヲ講ズルニ非ザレバ将来損害ヲ恢復スルコト能ハザルベキコトヲ理由トシテ第一部前段(二)所定ノ moratorium ヲ免除セラレンコトヲ聯盟會議ニ請求スルコトヲ得此場合ニハ同會議ハ紛争事件ノ曲直決定ヲ俟ツコトナク直チニ斯カル請求ヲ審議スルヲ要シ且請求国ニ對シ右 moratorium ノ適用ヲ免除シ又ハ之ニ代ルベキ一時的の処置ヲ提示スルコトヲ得

第三部 聯盟国ト非聯盟国間ノ關係ニ關スル規定、

(第十三条乃至第十七条)

聯盟国ト非聯盟国間ノ紛争ニ関シテハ

該聯盟国ハ右紛争ノ性質ノ許ス限り之ヲ仲裁裁判ニ附スルコトニ尽力スルヲ要ス若シ右紛争ノ性質仲裁裁判ニ適セザルトキ又ハ相手国ガ仲裁裁判ニ附スルコトヲ同意セザルトキハ紛争聯盟国ハ之ヲ聯盟會議ニ附スルコトヲ要ス、此場合ニ於テ同會議召集者ハ國際聯盟ノ名ニ於テ、非聯盟国ヲ招請シテ此目的ノタメ同會議ニ参列セシメ且紛争事項ヲ同會議ニ訴ヘシムルコトヲ要ス、非聯盟国若シ右招請ニ応ゼザルトキハ聯盟會議ハ紛争ヲ一方的ニ (*ex parte*) 審議シ且両当事国出席ノ場合ト同一ノ方法ニ依リ勸告ヲ為スコトヲ得、聯盟国若シ仲裁判決若ハ聯盟會議ノ報告ニ先チ又ハ仲裁判決若ハ聯盟會議ノ報告中ノ勸告ニ遵由シタルニ拘ラズ非聯盟国ノ攻撃ヲ受クルトキハ他ノ聯盟国ハ該聯盟国ニ応援スルコトヲ得

非聯盟国相互間ノ紛争ニ関シテハ

各聯盟国ハ聯盟會議ヲシテ戦争予防ノタメ調停ヲ為サシムルノ目的ヲ以テ当該事件ヲ之ニ提起スルコトヲ得、非聯盟国ハ聯盟會議ニ対シ聯盟加入ノ申込ヲ為スコトヲ得、同會

五五六 十二月六日 在英国珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

外務副大臣辭職ノセシル卿ガ政府ヨリ平和會議ニ際シ國際聯盟關係事務担当ヲ委任セラレタル件

議ニ際シ國際聯盟關係事務担当ヲ委任セラレタル件

第一一〇七号 (十二月八日接受)

往電第一〇四五号

外務副大臣ヲ辭職シタル「ロバート、セシル」卿ハ十二月五日選挙区民ニ対シ来ル可キ平和會議ニ際シ國際聯盟ニ関スル部分ノ担当ヲ政府ヨリ委任セラレタル旨発表セリ同卿ハ多年外務次官ノ職ニアリ本年夏外務副大臣ニ昇任シ「バルフォア」氏ヲ助ケテ實際英國外務省ノ中心人物タリシガ過般「ロイドジョージ」氏ガ発表セル対総選挙政綱中「ウェールズ」國教問題ニ関シ同卿多年ノ主張ト相容レザルモノアルタメ終ニ辭職スルニ至リタル次第ナルガ當時本使ガ「バルフォア」氏ニ会見ノ際氏ハ講和會議ノ目睫ニ迫レル今日同卿ノ協力ハ極メテ有要ナルノミナラズ自分トハ親戚ノ關係モアリ旁々極力其留任ヲ勸告シタルモノノ得心ヲ得ズ畢竟良心問題ナルノミナラズ総選挙ニ対スル關係モアリ

議ハ直ニ此申込ヲ好意的ニ審査シ其許否並ニ条件附加ノ要否ヲ決定スルモノトス

第四部 条約ノ抵触(第十八条)

(一)聯盟国ハ本協約ニ依リ其規定ニ抵触スル聯盟国相互間ノ条約上ノ義務ヲ一切無効ナラシムルコト並ニ聯盟国ハ右規定ニ抵触スル如何ナル約定ヲモ為サザルコトヲ各自約定ス(二)聯盟国ニシテ本協約加盟ニ先チ其ノ規定ト抵触スル義務ヲ課スル条約ヲ締結シタル場合ニハ当該國ハ直チニ斯ル義務ヨリ脱却ノ手段ヲ執ルベキ義務有ルモノトス。

五五五 十二月三日 在西国坂田公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

西国政府ガ國際聯盟關係諸問題調査ノ為委員

會設置ノ件

第一三三三号

西班牙政府ハ十二月二日ノ閣議ニ於テ League of Nationsニ関シテ起ルヘキ諸問題調査ノ為委員設置ノ勅令案ヲ審議可決セル旨半公式ニ発表セリ本電及往電第一三〇号参考ノ為メ在英仏大使ヘ郵報セリ

已ムヲ得ザル次第ナリト語り甚ダ失望ノ様子ナリシガ外務省ニ取リテハ目下極メテ必要ノ人物ナルヲ以テ終ニ再ビ今回ノ就任ヲ見タルモノナルベシ

五五七 十二月十四日 牧野全權委員(天洋丸ニテ)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

國際聯盟ニ関スル在任外大使ノ電報摘要ヲ元老及外交調査會委員ニ送付スル要アルベキ旨稟申ノ件

第五号 (十二月十六日接受)

國際聯盟ノ問題ガ今回ノ講和會議ノ最大ノ骨子トシテ其成立ハ大勢上疑ヲ容レザル様思考セラルル処我國ニ於テハ政界ニ於テモ一般國民間ニモ本問題ノ重大ナルコト及其成立ノ大勢ニ於テモ真面目ニ諒解セラレ居ラザルヤニ感ゼラル此際本問題ニ関スル在任英大使發貴大臣宛第八七三号第一〇〇五等第一〇三四号第一〇三七号第一〇八一号第一一〇七号及在西公使發貴大臣宛第一三三三号電報ノ如キハ不取敢其摘要ヲ至急元老及外交調査會委員ニ御送付相成リ置カルルコト有益ナリト思考ス本問題ニ就テハ已ニ貴大臣ニ於テ充分御考究夫レ御措置ノコトナル可キモ氣付ノ儘申進ズ

日本外交文書 大正七年 第三冊 終

附 錄 日本外交文書 大正七年第三冊 日附索引